



新年を迎えました。明けましておめでとうございます。平成28年も、保護者の皆様のご協力をいただき、地域の方々に支えられながら、教職員一同、引き続き全力で綿打小学校の教育を進めていきたいと思っておりますので、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

12月22日の冬至を過ぎてからは、徐々に日が延びてまいりました。とはいうものの、今が一年中で、最も寒く、空気も乾燥しますので、風邪を引きやすい季節です。外出から帰ったときには、しっかりと手洗い・うがいをするように心掛け、インフルエンザ等の感染症の罹患を予防しましょう。タグラグビーの「ザ綿打セブン」を中心とする綿打小のメンバーたちは、1月17日(日)に栃木市で行われる北関東大会に向けて、練習を続けています。

－ 3学期が始動 － 真心をもつ国際社会人になろう

1月7日(木)、第3学期が始まりました。冬休み中にワックスかけをしてきれいになった体育館で3学期の「始業式」を行い、児童の元気な声で歌う校歌や、「おはようございます」「明けましておめでとうございます」の大きな声が体育館中に響き渡りました。

3学期は、平成27年度の1年間を振り返り、子どもたち一人一人が、自分自身を見つめ直し、成長を実感し、来年度への夢と希望を描く期間にしたいと思っております。

ここに、3学期の「始業式」における校長講話の概要を紹介させていただきます。

今、劇場公開されている映画「海難1890」(文化庁助成)の実話を紹介し、「トルコと日本」の長年に渡る友好関係について話しました。

1889年(明治22年)オスマン帝国(現トルコ共和国)から親善使節団として、イスタンブールの港を出発し、日本に向かった「エルトゥールル号」の一行は、天皇に謁見した後、翌'90年に帰国途上で、和歌山県沖にさしかかり台風に遭遇し、難破しました。このとき、一行のうちの532名の尊い命が犠牲になりましたが、串本町(紀伊大島)の住民たちによる懸命の救助活動で69名の命が助かりました。生存者たちは、神戸の「日本赤十字社」による12日間の治療を受け、日本の船で帰国することができました。これが「日本赤十字社」による最初の外国人救護でした。

今年度、綿打小学校の児童は、全員が「JRC」に加入し、「青少年赤十字」の一員としてのバッジをつけて、JRCの奉仕活動を続けています。「エルトゥールル号」がイスタンブールを出航した1889年は、今の綿打小学校が「綿打尋常小学校」として開校した年と一致しています。今から127年前のできごとでした。

「エルトゥールル号海難事故」から95年を経た1985年のこと、「イラン・イラク戦争」のさなか、飛行機への無差別攻撃の予告時刻が刻々と迫るときです。テヘラン空港では、イラン在留の日本人学校の児童を含む日本人たちが救援機を待ち望む中、帰国が叶わず途方に暮れていました。そこで、かつての日本人が示した真心を知っているトルコ人たちは、自分たちの国の飛行機の席を日本人に譲り、紛争の続くイランからの脱出を叶えてくれたのです。

この「テヘラン邦人救出劇」は、「助けを求める人に手をさしのべる」という奉仕の精神を受け継ぎ、「トルコと日本」の友好関係をさらに深めることになりました。この逸話を教訓に、綿打小学校の児童が「真心」をもった国際社会人に成長して欲しいと願います。

今、綿打小学校校長室のベランダには、プランターが並び、トルコ原産と言われる「チューリップ」の球根が植えられています。寒い冬の季節を乗り越えた春には、赤と黄色の美しい花を咲かせることを願いながら、校長室掃除の6年生児童が水やりを手伝っています。

「始業式」に続いて、育児休業中だった佐藤美里先生が2年2組の担任として復帰したことを紹介しました。佐藤先生からは、児童に向けて就任のあいさつをいただきました。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。育休補助教諭としてご指導をいただいた大森妙子先生は、2学期末の終業式の際にあいさつをいただきました。現在は、生品小学校に着任しています。

一「福祉年賀状」を皆さんに一「おめでとう」のごあいさつ

綿打地区にお住まいのお年寄りの皆さんに宛てて、今年も恒例の「福祉年賀状」をお届けすることができました。2年生以上の児童が心を込めて書いた手作りの「年賀状」を「元日にお届けできますように」という願いのもとに、10地区の老人会の各役員さんにお骨折りをいただき、早めに手配をさせていただきました。

「年賀状」を読んでいただいた方々からは、早々と感謝の気持ちを込めたご返事をたくさんいただきました。「年賀状」という形の残る手紙を通したお年寄りの方々とのコミュニケーションにより、とても意義ある交流を深めることができました。そして、子どもたちは、喜んでいただけたという実感を得ることができ、充実感や満足感を味わうことができました。

昨年暮れには、テレビのコマーシャルで、タレントの人気アイドルグループ「嵐」による「♪年賀状ください♪」の映像がたくさん流れました。この映像を繰り返し見て、「年賀状」を書こうという気分になられた方も多かったかもしれません。携帯電話・スマホ等の普及により、「年賀状」を書く習慣が薄れつつある昨今ですが、「福祉年賀状」により、「年賀状」の価値を見直すきっかけにもなったのではないのでしょうか。

<「書き損じ等未使用郵便はがき」回収へのご協力をお願い>

公益社団法人視覚障害者福祉協会から、「書き損じ等未使用はがき（年賀はがき、郵便はがき）」の回収（寄付）についての協力依頼がありました。綿打小学校では、例年、この運動への協力を続けてきました。今年も協力をしたいと思っておりますので、ご賛同をいただけましたら、ご家庭で書き損じてしまった「官製はがき」をご供出ください。

なお、「お年玉付年賀はがき」の抽選日は、1月17日（日）ですので、ご確認が済んでからご提出ください。別途、ご協力をお願いを学年・学級通信等でお知らせいたします。

～バリアフリートイレ設置～「共生社会」への環境整備

この度、A棟（南校舎）1階西の女子トイレに「バリアフリートイレ（洗浄機付）」が今年度内に1台、設置されることになりました。

今年の4月1日には、「障害者差別解消法」という法律が施行されます。この法律は、障害のあるなしにかかわらず、人々が共に暮らしていく社会から、実体的、心理的な差別を解消し、「インクルージョン」のしくみや機会を充実していこうという趣旨で制定されました。

これからの学校においては、この法律に基づく「インクルーシブ教育」に向け、教育的ニーズに応じた「基礎的環境整備」と「合理的配慮」が求められます。

綿打小学校には、現在、来賓玄関の前に「スロープ」が設けられ、車椅子での移動が部分的に可能になっています。しかしながら、校舎の至る所で段差が多いなど、障がい等による困難を抱える児童にとり、まだ十分でない環境もあります。「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」の考え方から、校舎建築の見直しが迫られることもあり、改善策を考え、徐々に整えていく必要があると思われれます。

また、太田市の小・中学校では、「介助員」等の人的配置により、個に応じた配慮も充実してきました。さらに、「おおたん教育支援隊」や「悩みごと相談員」「スクールカウンセラー（県費）」が配置され、個に応じたTT等の指導による特別支援教育の充実をはじめ、学力向上、不登校対策、悩みごと相談、カウンセリングなどが図られてきています。

校舎建築や教室環境などの目に見えるハード面の整備を順次、進めるとともに、人的配置や指導者の専門性の向上による目に見えないソフト面での充実を進めることが今後、ますます求められるようになります。こうした学校教育をめぐる動きがあり、学校の教育的ニーズに教育予算が伴うことによって、教育環境が整っていきますので、共生社会へ向けた動きにどうぞご理解ください。